

(2) 東北



東北地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

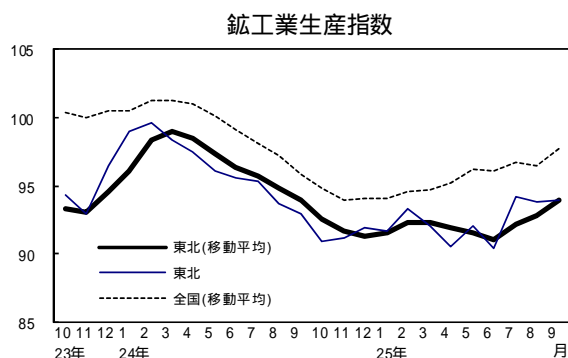
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 8 月)	今回 (平成 25 年 11 月)	
景況判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復している	
鉱工業生産	緩やかに持ち直しているものの、 — 服感	持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

7～9月期には、電子部品・デバイスは、海外向けにモス型半導体集積回路（その他 CCD）が好調だったこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、海外向け半導体製造装置の受注が増加したこと等から増加した。食料品・たばこは、生菓子等で増加した。情報通信機械は、デスクトップ型パソコンやノート型パソコンが法人向けに好調だったこと等から増加した。輸送機械は、海外向け自動車用エンジンが好調だったこと等から増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	16.9	7.4	7.4	6.0	0.4	2.5
はん用・生産用・業務用機械	14.7	1.5	2.2	1.4	2.0	2.1
食料品・たばこ	10.6	1.9	2.4	1.6	0.1	2.6
情報通信機械	9.2	8.7	10.1	8.9	1.8	8.0
輸送機械	8.3	3.6	6.5	6.2	1.0	4.8
鉱工業	100.0	1.5	3.3	4.2	0.4	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

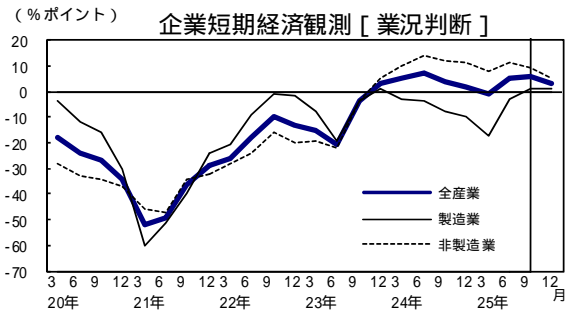
2. 7～9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。

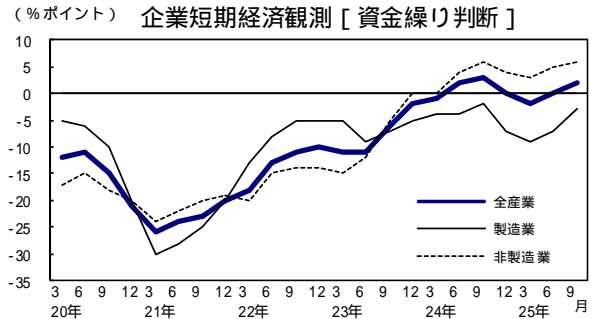
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

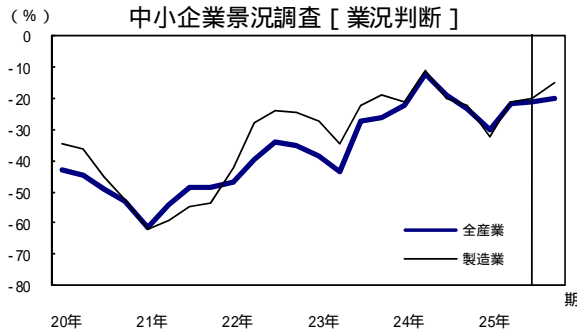
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年12月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

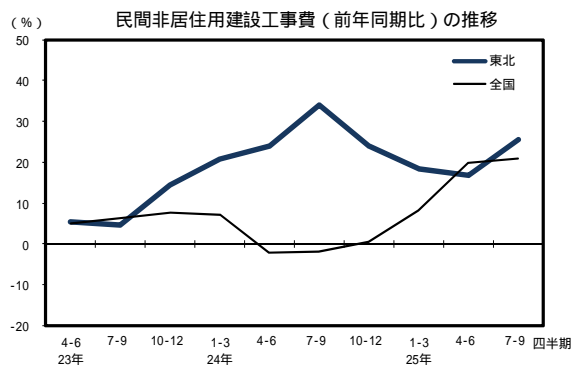


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「自動車部品は、国内需要については計画を上回る水準で受注が入ってきており、輸出についても比較的良好な環境にある(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度計画
全産業	16.5	7.7(2.9)
製造業	6.3	12.7(3.6)
非製造業	31.4	1.6(2.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.6%減、8月は同2.3%増、9月は同0.9%減となった。

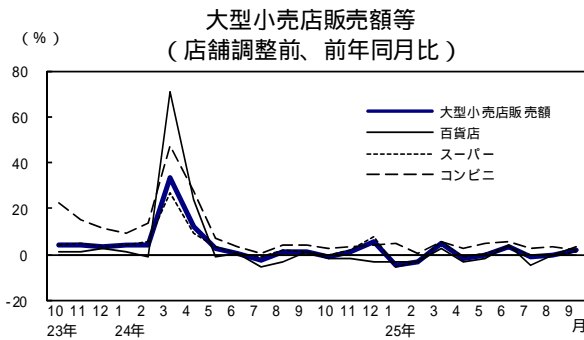
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、夏物衣料が不振だったこと等から前年を下回った。8月は、夏物衣料が好調だったものの、惣菜や菓子等がふるわなかったこと等から前年を下回った。9月は、秋物衣料が好調だったことや、飲食料品が物産展等で好調だったこと等から前年を上回った。
スーパーは、主力の飲食料品で野菜や鮮魚で動きがみられたほか、家庭用品で家具などが好調だったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月) [家計動向関連 (現状)]

東北地域の家計動向関連DIは、45.4となり前月より2.2ポイント低下した。

「秋物本番の時期だが、日中の暖かさで秋物が売れない。例年に比べて来客数も少ない (衣料品専門店)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

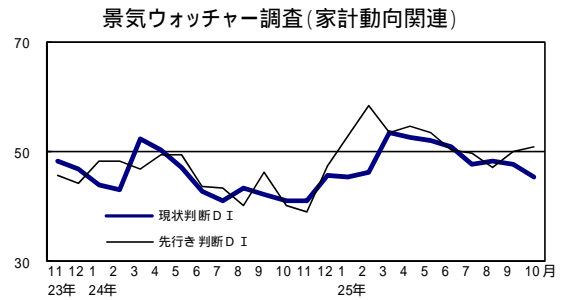
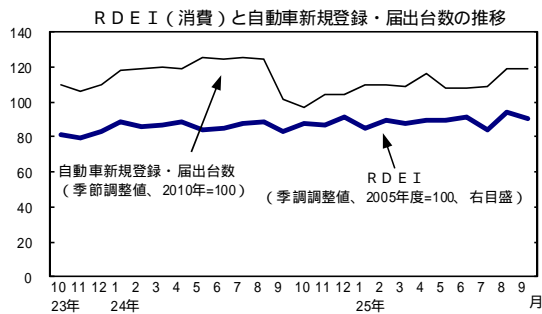


	25年7-9月	25年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.1	1.6	2.3	0.9
大型小売店(*2)	0.0	1.1	0.3	1.6
百貨店(*2)	1.0	4.8	0.1	3.1
スーパー(*2)	0.2	0.2	0.3	1.3
コンビニ(*2)	2.5	2.4	3.1	1.9
乗用車(*3)	1.3	13.2	5.0	16.3
(季節調整値)(*3)	4.4	0.8	9.9	0.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

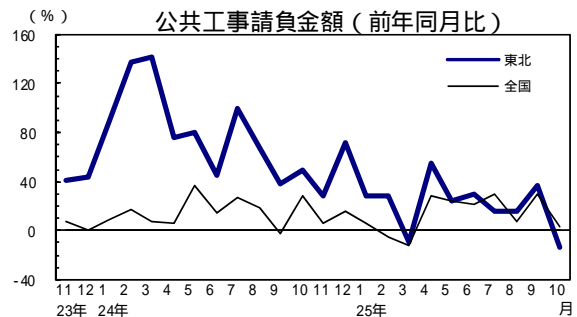
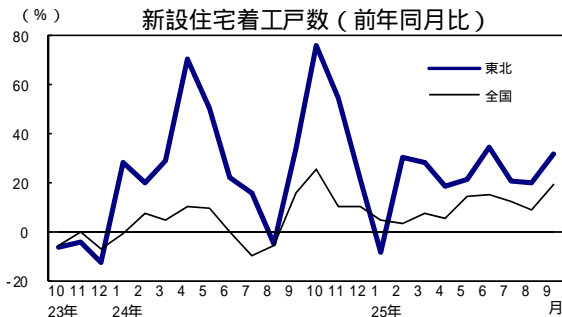
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

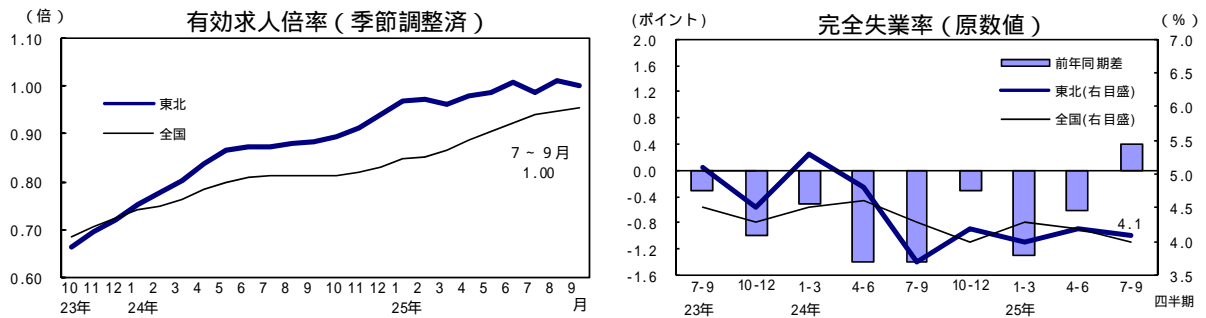


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を上回っている。



(備考)23年7-9月期の数値は補完推計値であり、23年7-9月期及び24年1-3月期から24年7-9月期までの前年同期差は、補完推計値を用いて計算した参考値である。

景気ウォッチャー調査(10月)[雇用関連(現状)]

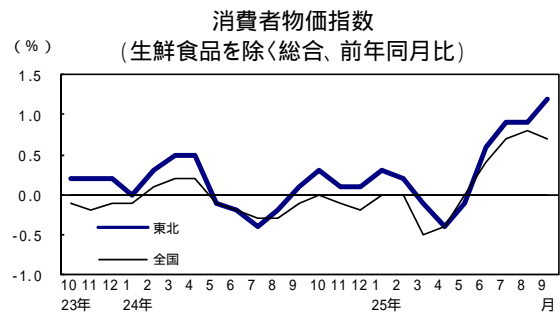
「小売業で来年3月の新店舗オープニングスタッフとして480人の求人提出があった(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年10-12月	25年1-3月	4-6月	7-9月	25年10月
倒産件数	120	126	118	113	41
(前年比)	0.8	0.8	4.1	3.4	18.0
負債総額	246	266	299	195	65
(前年比)	54.7	43.1	26.8	66.4	45.3



景気ウォッチャー調査(10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・運送に掛かるガソリン代や工場の稼働による電気代などの高騰で受注価格を値上げする考えを取引先に説明した。しかし、取引業者からはそうした値上げでこの先も同じように仕事はできないとの苦情が多々ある(土石製品製造販売)

<先行き>

- ・消費税増前の駆け込み需要対策による短期的人員増強が見込める(人材派遣会社)

